

久留米市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進協議会 地域ケア会議専門部会
令和元年度 第 1 回会議 会議要旨

日時	令和元年 1 月 1 4 日 (木) 計画協議会終了後～
場所	久留米医師会館 教室 1
出席者	委員：古村部会長、松本副部会長、岡委員、杉本委員、真木委員、大久保委員、重永委員、後藤委員、吉永委員 事務局：・長寿支援課 野口課長、小山補佐、古賀補佐、合戸補佐、山田、上野 ・介護保険課 柴尾課長、田原主幹、庄村補佐、淵上主査、城戸
欠席者	今里委員、柴田委員、濱本委員、堀委員
傍聴者	なし
議事次第	1 開会 2 部会長挨拶 3 議事 (1) 個別支援地域ケア会議・地域課題ケア会議の分析 (平成 2 9～3 0 年) 4 その他 5 閉会
議 事	
1 開会	
2 部会長挨拶	(古村部会長より挨拶)
3 報告事項 ＜部会長＞	報告事項 (1) 「個別支援地域ケア会議・地域課題ケア会議の分析 (平成 2 9～3 0 年)」について、事務局より説明をお願いします。
＜委員＞	(事務局より資料に基づき説明) 今、新総合計画のパブリックコメントを拝見したところ、自治会加入率も右肩下がり、老人クラブの加入率も低下しています。障害者の社会参加は、6 7%が地域社会に参加していないというデータが出ていました。圏域ごとの課題としておそらく共通しているのが、地域の担い手。これはどの校区でもおそらく一緒だろうと思います。また若者とのマッチングですが、ある高校で授業をした際に、お年寄りを看取ったことがある人を尋ねたところ、全クラス中たったひとりでした。このくらい、世代間が離れてしまっています。一方で老人クラブの加入率低下について、おそらく団塊の世代の方たちは老人クラブに加入されないと思います。だから老人クラブありきから脱却して、地域の中で世代間交流を図っていくためには、コミュニティセンターでは集まらないことを考えた時に、久留米市は地域密着型で各地域に介護事業所があります。せっかく地域密着型がある程度、学校圏域であるということで、居場所もしくはサロンとして、事業所が居場所に重なっていくことができると、久留米市独自の居場所づくりができます。事業所以外にも居場所づくりは本当に必要だと思っています。中心部は特にマンションの閉じ籠りが本当に増えていて、この間も、4 tトラックで乗り切れないことがありました。これはごみがマンションの中に詰まっているということで、そういうことも進んでいます。一方で交

	<p>通の問題、これはエリアごとで違うと思います。私は北野と城島の公共交通会議に入っていますが、とても工夫しながら頑張っていると思います。北野や城島エリアで頑張っている課題と、都心部では、車の免許返納で、郊外型のお店に買い物に行けなくなったという事情があるので、表と裏というところがあります。ある程度、課題は絞られていると思います。また、地域の縁が切れているので、地域の縁をコミュニティセンターではなく、どうやって居場所を作ったりするという課題と、それに事業所がうまく使えないかっていう話と、もしくは交通の問題に関しても大事ですし、もう一つ世代間交流で担い手を増やしていく、この辺がないと、なかなかこれだけ課題が複雑化してくると、たとえば事業所だけとか、包括だけとか、社協だけとかでは解決できないなということを実感しています。</p>
<部会長>	<p>ありがとうございました。居場所、それから世代間交流のこれからの課題についてのご意見だったと思いますが、他にご意見ございますか。</p>
<委員>	<p>いろんな職種、事業所や包括、医療関係者等が集まって、地域の課題を議論されています。やはり続けること、継続的に会って行うことが大事だと思いますが、この会は年度別だと回数が変わりますか。また、定例ではないのですか。</p>
<事務局>	<p>定例ではございません。中には1回で終わるものもあり、続くものもあります。年度別の回数として、初回の開催数は、協議体でいうと、25年度11、26年度9、27年度11、28年度24、29年度20になります。協議体は次年度にも続くこともあり、29年度110回、30年度95回と、回数はものすごく増えております。</p>
<委員>	<p>私は大牟田から来ており、大牟田の場合は、月に1回、包括ごとに同様の会議をしています。その中で、困った事例等を持ち寄って、その中でだんだん地域としての課題が出てきています。同じ人が毎月集まり、先程の報告にあったように、参加者がどんどん変わるという話にはなりません。もし可能であれば、検討されてはどうでしょうか。</p>
<部会長>	<p>開催について、今後の定例にする可能性について、何か検討できる余地はございますか。</p>
<事務局>	<p>久留米でも地域課題検討会議は、比較的定例で行われています。民生委員の定例会議や、地域の方、自治会の方とか。ただ、民生委員や自治会役員の交代により、メンバーが変わることもあります。また、事業所の管理者が変わり、そういうところで前のことはわからない、ということがあります。我々としても、できるだけ同じ顔触れの方がいいと思っていますところでは。</p>
<部会長>	<p>では、できる限り定例に持っていくというような動きはしてもらえるということですか。</p>
<事務局>	<p>はい。</p>
<副部会長>	<p>水を差すようで申し訳ないが、同じ顔触れは困難だと思います。データを必ず誰かが持っていて、利用してわかるようにしないといけない。同じ人がずっといる訳ではありません。同じ人たちが話し合ってもらうのが一番良いのですが、そうではなくても可能なシステムを作ることが大事です。それはたぶん包括がやっているのではないのでしょうか。自分たちで共有のソフト持って行っていく。それを市がバックアップして、続けていくことをやらないと。その方が効率的だと思います。</p>

<p><部会長></p> <p><委員></p> <p><事務局></p> <p><委員></p> <p><事務局></p> <p><部会長></p> <p><委員></p> <p><部会長></p>	<p>ほかに何かご意見はありませんか。</p> <p>今日報告があった課題は、支えあい推進会議で出ている課題とほとんど一緒です。社協では校區別にニーズを把握して、アンケート調査をしているので、もっと詳しくわかると思います。資料の提供はできます。先ほど説明にありましたが、事業者の課題として、民生委員や自治会と、地域の人がつながらないという報告がありました。一方で、地域では逆に事業所となかなかつながらない、ノウハウがありません。私たち社協職員もそこが弱いところであって、専門職は逆に包括が強いです。なので、お互いの強みを出し合いながら、それこそ縦割り行政を今できるだけ横串を刺そうとしているので、社協と包括と同じ地域づくりをしている仲間として、また保健師も地域づくりに着手しているので、久留米市として、団体と団体の横串を刺すとかですね。確かに支えあい推進会議には、保健師や包括も声掛けして出席してもらっていると思います。なので、その課題もカウントには入れていますか。</p> <p>支え合い推進会議の課題は入れていません。</p> <p>同じような課題なので、一緒にできないかと思います。検討をよろしく願います。</p> <p>支え合い推進会議に出ているような様々な検討課題、また漏れている課題等もあると思いますので、資料を確認させてもらいながら検討したいと思います。</p> <p>サロンや居場所、事業者と地域がどうつながるのか、世代間交流という課題もありましたが、その点で何かご意見ございましたら、また久留米市に検討してもらいたいということはいかがでしょうか。</p> <p>地域で統計を取ると課題が出てくると思います。私もグループホームという地域密着型サービスの事業をしており、是非、事業所を利用して、地域のコミュニティづくり、これは国が求めているところだと思います。だからこそ、地域密着型サービスという位置づけにしていると思っています。なので、久留米市には事業者を利用してもらいたいです。次に、解決できない課題の一つに、事業所によって参加者が毎回違うことがありました。これは、やはり介護職員が少なく、どこも職員の不足し、参加したくても出来ないという実情もあるのではないのでしょうか。あと、地域防災計画と事業所の避難計画の連動が不十分という項目に対して、他の地域ではどうかという検証はされたのでしょうか。他の地域も同じ課題を持っているのか、地域によって解決方法が違う、また解決できたとしたら、他の地域にも同様にできるのでしょいか。また、団塊の世代の人が老人会などへ参加しないという話に関連して、私も事業として認知症の方を15年預かっている中で、認知症の方本人も変わってきています。ご家族も考え方が変わってきています。今の80代90代の方は、何かしてあげると「ありがとね。ごめんね」という言葉で返ってきます。しかし、今後、団塊の世代、契約社会の高度経済成長を経験されている方が高齢者になる。そういう中で、地域づくりを今後どうしていくべきか、考えていく必要があると思っています。</p> <p>ありがとうございます。事業所を利用する中での居場所をこれからは考えていくことも可能ではないかというご意見でした。先ほどの会議で利用者インタビューの報告がありましたが、介護を実際に行っている方々、地域の方々、サロン、居場所についても認知症関係の方々とか、いろいろなインタビューをしようと市が検討しており、今の意見も吸収して、インタビューの中で引き出すことが大切だと思います。</p>
--	--

す。また、認知症カフェのこれからの可能性とか、事業所とのマッチングということも、インタビューの中にも入れてはどうかと思います。他に世代間交流のことも出されましたが、何かご提案、ご意見はございませんか。

<委員>

世代間交流ではありませんが、私は地域密着型の看護多機能を運営していて、地域密着型である以上、地域と交流しなければいけないと常々思っていますが、ノウハウがよくわかっていません。ずっとやらなくてはいけないと思っています。成功しているところがあれば、方法などを教えてもらえると、事業所としては利用してもらいたいし、是非交流の場としても提供したいし、外に出て行きたいという気持ちはあるのですが、ノウハウを開拓する時間がなかなか取れません。介護スタッフが少ない中で、管理者も一緒になって働いている状況で、会議に行く時間もとれないし、事業所としてやらないといけないことが、だんだんおざなりになっているような現状です。例えば、事業所としては消防訓練を年2回やっており、地域の方と一緒に訓練を行いたいと思っています。しかし、どうしたら繋がるのかわかりません。だから、教えてもらえると事業所は助かると思います。また、久留米市に多くの介護事業所があるので、事業所を活用すると、コミュニティを立ち上げなくても、その場を何に利用するか具体的には思いつきませんが、考えられるのではないのでしょうか。また、今からの高齢者は、変わってくると思います。私のいる西町は比較的自分の趣味を突き詰める方が多くて、集まるよりも、自分の楽しみを自分で見つけていく、だから集まることだけがいいことなのかと思ったりします。そこは地域性があると思うので、校区の特徴等を見つけて、皆同じようにサロンやコミュニティを作るのがいいとは必ずしも思いません。元気で自分がやりたいことを見つけて、どんどんやれる人が多いところは、そういうところをもっと伸ばせるような何かを提案するのがあるのかなと思います。

<部会長>

ノウハウが無い中で提案してもらおうと、事業所を利用する可能性が広がるのではというご意見だったと思います。そういう点もすべてアンケートやヒアリングに入れていけば、可能性っていうのは広がるのか、そして広がればまた提案していけるのか、政策に入れていくことにつながるのではと思います。ほかには何かご意見ございませんでしょうか。

<事務局>

先ほどのご意見について、もう少し状況を教えてもらえませんか。

<委員>

西町の民生委員等に対して、事業所の催し物の案内をしますが、なかなか来てもらえないので理由を尋ねてみました。すると、それぞれ皆さんで好きなことをやっているの、催し物に行くよりも自分の好きなことをして、自分の時間を有意義に使いたい、自分たちで楽しみを見つけている方が多いのではという話でした。

<委員>

それは中央部も一緒です。しかし、講師として呼ぶと喜んで参加します。横浜ではベテランズという動きが始まっていて、ベテランの方たちが自分のノウハウを活かしましようという発信をされています。自分のいいところを活かしたいという意思の方が強いのではないのでしょうか。

<委員>

一方で、介護事業所が自分の地域にあるので、住民が安心しているのも事実だと思います。事業所があるから安心できる、何かあったときに相談できるのかなというように、住民もそのような思いになるというのも事実かなと感じています。

<委員>

事業所のイベントに来てもらい活動してもらおうとか、そういうことを喜んでする方もいるので、巻き込み方ではないのでしょうか。いかに世代間交流で巻き込んでいくかというところはあるかもしれないですね。

<p><部会長></p>	<p>ベテランで、指導ということなら出てきてくれる方がいたら、巻き込んで教えていただく。小さい区域で教えてもらう中で、世代間交流をいかに作っていくのかというような地域づくりというものはあるのかなと思います。余談ですが、私は、脳検診にずっと行っています。検診に毎年来る人で、認知機能が落ちない方に対して興味があり、「何かやっているのですか」って聞くと、認知機能が落ちない人は往々にして、ボランティアをやっていると言われます。ボランティアがいかにすごいのか、認知機能が落ちないためにいくらお金を使い、運動をしても、落ちるときは落ちますが、本当にボランティアをしていることと、人と交流するのはすごいこと。いいことだからボランティアしましょうみたいな合理的な考え方で話すと、今からの人たちは認知症になるのは怖いので、いい啓発になると思います。自分のためにボランティアしましょう、人のためではなくて、自分の認知機能を維持するためにということは伝わるのではないのでしょうか。</p>
<p><副部会長></p>	<p>維持はあるけど、将来的になります。だから、将来自分たちがなった時に担い手は誰なのかと言ったら、自分たちの年代。自分たちの将来を確保するために、自分たちでボランティアするというのが理想的な街だ、という意識を持ってもらうことは重要だと思います。</p>
<p><委員></p>	<p>関連して、よかよか介護ボランティアについて、登録者は沢山いるのですが、介護保険の財源なので、介護施設しかボランティアができない。登録者の方と話をすると、もっとこんなことしたら、あんなことしたらと出てくると思います。高齢者に働いてもらっている民間企業もありますよね。</p>
<p><委員></p>	<p>確か認知症の方が洗車する事例があったと思います。</p>
<p><部会長></p>	<p>献立を覚えられないカフェ、認知症の方たちがされているカフェもあります。いかに認知症の人たちの力を利用しながら、介護施設等との連携を図りながら、地域、地域で場所がないってということだったら、そういうのもあるのかなってという感じですかね。ほかに何かご意見は。</p>
<p><事務局></p>	<p>先ほどの大牟田市の事業所で認知症の方が洗車を行っている事例など、全国的に厚労省が後押ししている部分もあり、久留米市でも何らか取り組んでいければと思います。看護多機能での防災訓練について、なかなか地元の方との連携ができないということですが、看護多機能に限らず、グループホームでも夜間は人が少ないので、一人二人の宿直、あるいは夜勤の方で、実際火災が発生した際に職員だけで避難させることは非常に厳しいと思います。近隣住民を巻き込んだ消防訓練をぜひお願いしたいと思います。その際、2か月に1回行われています運営推進会議、この会議の委員も入って消防訓練している施設が結構多いです。あるいは合同での運営推進会議もできているので、合同で消防訓練等を行うことで、地域と一緒にできるのではと思います。もう一例ですが、運営推進会議の前後に、ミニレクチャーを毎回している事業所、これは運営推進会議のメンバー、民生委員だけではなく、近所の人も呼んで、例えばインフルエンザが流行り始めた時に、地域の方に来てもらっているというところもあります。今の話は市が知っているほんの一例だと思います。包括とか、事業所協議会の会員同士の連携で、情報共有できることがあると思います。それが非常に大きな力になると思いますので、一緒になって情報共有させてもらえればと思います。</p>
<p><部会長></p>	<p>ありがとうございます。時間も過ぎてきましたが、ご意見はよろしいでしょうか。それでは今いろいろ意見を出してもらったので、アンケート、インタビューに盛り</p>

<p>4 その他</p> <p>5 閉会 ＜事務局＞</p>	<p>込んでもらいながら、これからの施策について何か提言になるよう、今後も考えていければと思います。それでは議論も出たので、ご理解いただいたということよろしいでしょうか。</p> <p>(なし)</p> <p>以上で地域ケア会議専門部会令和元年度第1回会議を終了します。</p>
------------------------------------	---